

令和2年5月号

【発行元】

岐阜県福祉のまちづくり推進協議会
〒501-3246

関市緑ヶ丘2-5-78

TEL : 0120-337-301

FAX : 0575-24-5733

月刊 あったかいご通信

月刊「あったかいご通信」を発行する土地活用研究会は、地域密着の建設会社が福祉施設の開業をサポートする全国50社の国内最大級のネットワークです。毎月、業界の最新情報や成功事例をお届けします。業界全般の最新情報や経営のコツ、利用者募集や人材マネジメントなどリクエストも大歓迎です！

※記事引用・厚生労働省・国土交通省・㈱官公通信社・高齢者住宅新聞社・福祉新聞・日本経済新聞 他

平塚市の障害者施設が連携して 手作りマスクを作成 (1日に50枚を作成)



マスク不足に一役買いたい——。神奈川県平塚市の市役所1階にある福祉ショップ「ありがとう」で、市内の障害者施設利用者が手作りしたマスクの販売が好評だ。

新型コロナウイルスの感染拡大でマスクが品薄状態になるのを見かねた福祉ショップ運営協議会の高橋真木会長(69)が、市内にある福祉事業所に呼びかけ、3月13日から販売を開始したが、今ではオープン前から行列が出来るほどの人気になっている。

福祉ショップではこれまで、市内にある視覚障害者支援事業所「地域活動支援センターサポート湘南」が、5年ほど前からインフルエンザの始まる前から花粉の季節が終わるまで、毎年120枚ほどの手作りマスクを販売している。

同市内と隣接する大磯町には28の障害福祉事業所があり、福祉ショップでは各事業所で作られた日替わり弁当やパンのほか、ポーチやマットなどの雑貨品を販売している。手作りマスクの製作・販売は高橋会長の呼びかけにサポート湘南のほか、新たに7施設が応じてくれたという。マスクはガーゼやささらした木綿などを使い、洗って何度でも使えるようにしたほか、カラフルな柄で個性的な仕上がりになったものもある。マスクゴムの代わりにTシャツの切れ端を使う工夫もされている。サポート湘南の支援員、岡本千秋さんは「ひも状で耳が痛くならないものがあればとの話から、コストがかからず、伸縮性のある使い古しのTシャツを使った」とアイデアもこらした。

1日に販売するのは50枚から60枚ほど。

高橋会長は「『こんなマスク』と言われると思っていたが、ほとんどの人から『苦労して作ってくれたんですね。ありがとうございます』とお褒めや励ましの言葉をいただいた」とうれしそうだ。

「コロナの感染拡大が終息するまで販売を続けたい」とも話している。福祉ショップは平塚市役所本館1階東側多目的ホール。営業時間は開庁日の午前10時から午後3時。